

美山小中学校学校運営協議会

美山小学校と同様に、美山中学校も令和2年度から「コミュニティ・スクール」になりました。

コミュニティ・スクールとは学校運営協議会が設置された学校のことです。美山小学校と美山中学校はバックグラウンドである地域が同じですので、合同で「美山小中学校学校運営協議会」を設置しました。

委員紹介(敬称略)

委員長：中野愛子、副委員長：外田誠、美山まちづくり委員会 大野光博、地域から：長野豊、坂本二三恵、中藤講、前田好久、徳田利春、小学校PTA会長 井爪雅啓、小学校前PTA会長 大萱和人、中学校PTA会長 西直人、美山町出身有識者：筑波大学名誉教授山口満、美山小学校：村田富三昭校長、田中久登教頭、山田啓亮、中島明子、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)古北真里、美山中学校：明田忠弘校長、朝倉幸平教頭、桃井充洋、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)山口恒一

学校運営協議会では、学校運営やその内容について考えるとともに、美山の子どもたちを地域ぐるみで育てるべく、地域学校協働活動を支えます。

今年度の方針と取組を一部紹介

昨年度の熟議の内容を踏まえ、体力・食・国際理解・農・自然と環境について、地域と一緒に becoming 取り組めるような様々な観点から、また、多様な手段で取り組んでいきます。

その1 親子活動が新しくなります！

学校の授業では難しいような自然体験や、食の体験など、もっと体で感じて欲しいという思いを実現するために、今年から親子活動の取組が変わりました！

- ・学校の授業時間外での開催
- ・学校外での活動実施
- ・食べ物に関する内容もOK！

食
自然

ということで、学年ごとに、川遊びやものづくり、食に関する体験などさまざまなアイデアが検討されています。

その2 先生も芦生で自然・環境研修を実施！



熟議では毎回のように挙げられてきた芦生の森での体験について、学校の先生方の中でも実際に体験してみたいという声が上がりました。そこで、夏休み中の教職員研修を利用して、芦生研究林フィールドワークを実施しました。→裏面へ

その3 今できること、地域と一緒にできることを考えて取り組みます！



今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、新学期が遅れ、児童生徒の生活にも大きな影響を及ぼすこととなりました。協議会では子どもたちの生活リズムを維持するため、また、長い休みが終わり学校再開となった時うまく順応していけるようにできることはないかと考えました。そこで、小中学校の先生方をお願いして、防災無線を使用して、児童生徒、地域の方へコロナ禍の状況をともに乗り越えていけるよう呼びかけを実施しました。

『わくわく小学校』 『わくわくスタディ教室』で学習支援を実施

☆『わくわくスタディ教室』サポートスタッフを募集しています！☆

今年の春は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、学校の新学期が大幅に遅れてスタートしました。長い休みが明けて、久しぶりの学校生活、授業にと子どもたちも頑張っており、取り組んできました。小学校では『わくわくスタディ教室』と題し



て、毎週木曜日の放課後の時間帯を活用して、希望する児童を対象に補充学習を行っています。希望者が多いこともあり、教職員だけではなく、地域の方にもサポートスタッフとして児童たちの指導や対応に活躍いただいています。2学期も継続して実施しますので、スタッフとしてご協力いただける方は美山小学校までご連絡ください。



聞き書きに挑戦！

7月22日、3年生が「聞き書き」に取り組みしました。「聞き書き」は平成15年から続く美山中学校の伝統の一つで、「地域の人のお話を聞くことで、ふるさとを知り、ふるさとを見直すとともにその生き方に学び、将来の自分の生き方について考える」ことを目的としています。聞いたお話をもとに、文章を書きあげることで国語力の向上にも繋がります。

今年は30代から70代までの幅広い年代の5人(地元企業石田要一さん、大野屋代表梅津毅さん、茅葺職人小林正之さん・金谷史男さん、森林組合菊地大輔さん)を講師に迎え、それぞれが歩んでこられた人生を、エピソードを交えながら熱く語っていただきました。生徒は5～6人が一組になり、グループごとに一人の講師の方からお話を聞き、メモを取りながら熱心にお話を聞いていました。



この後、取材メモをもとに、講師の方を一人称にした自伝風の文章に仕上げます。仕上げた文章をまとめて冊子にするとともに、アンビシャスタイムで発表する予定です。

お話ししていただいたことが、生徒たちの心に残り、これからの人生を考える糧になると期待しています。講師をしていただいた皆さま、貴重なお話を大変ありがとうございました。



タライ小5

イで稲作に挑戦！

5年生は総合的な学習として美山の産業について考え、美山の産業である農業「米作り」を間近で観察することにしました。例年であれば地域の田んぼをお借りして田植えをしますが、今年はグラウンドにタライを並べて、タライ稲の栽培に挑戦です。

指導をお世話になった地域の匠は、平屋地区で約50年にわたって農業に関わっておられる寺井憲治さんです。お米一粒からどれほどのお米が栽培できるのか、また、一年間



を通した世話の方法など、苗を手に取りながら、詳しく教えていただきました。5年生からのたくさんの質問には、プリントを作って後日学校へ届けていただき、「うまく収穫でき“たらいイネ”（稲）」とタイトルをつけてくださいました。ペットボトルでの栽培にも挑戦しており、根の様子も観察できます。苗は現在グラウンドの片隅で順調に成長しています。

うまく収穫でき「たらいイネ」!



農業小2

委員会さんとサツマイモ苗を植えました



毎年5月には美山町農業委員会さんにお世話になって、サツマイモ苗定植の作業をします。今年は新学期開始時期が遅れたことにより中止せざるを得ない状況となっていました。農業委員会の皆さんのご協力により、苗の手配や畑の準備、作業日程の調整をしていただき、今年も2年生が体験することができました。暑い中の作業でしたが、久しぶりの外での体験は、子どもたちにとっても、地域の皆さんにとっても楽しい時間となったようです。秋の収穫が今から待ち遠しく感じます。

芦生教職員

の森で夏の研修を実施

8月の研修には小中学校教職員20名が参加し、芦生もりびと協会ご協力のもと、小学生がグリーンワールドで訪れる予定の杉尾峠～上谷のコースを歩きました。由良川の最源流をたどるこのルートは、芦生の豊かな自然が織りなす命の息吹を感じることができます。緑に覆われた真夏の山は、里山よりもずいぶん涼しく感じました。



かや小3

ぶき職人さんに教わる！美山のお宝！

美山のお宝と言えば「かやぶき民家」、3年生の保護者の中には、お二人の茅葺き職人さんがおられます。そこで、地域のお宝を守る匠のお二人、金谷史男さん大前康多さんに先生になっていただきました。教室でかやぶき屋根のひみつについてお話を聞いた後、体育館でかやぶき屋根がどのようにして葺かれているのか、作業を実際に体験させていただきました。

自分たちの身の回りにある、すすき、木材、稲わらなどを使って作り上げられている屋根は、とても合理的に造られています。



道具もまた、手作りで独特です。職人、テッタイさん(手伝い)の役に分かれて、茅を屋根の骨組みに乗せる作業から、屋根の裏側でハリ(針)を受ける作業などを体験しました。回数を重ねるうちに、屋根の厚みが出てきます。こうした作業の積み重ねで、美しく仕上げられていく職人の技、大変な苦労や工夫を少し知ることができました。

2週間後、かやぶきの里を訪れた3年生28名。あいにくの雨模様でしたが、雨露が屋根にしたり落ちる様子を見ることができました。そのおかげで、茅葺き職人さん

に教えていただいた屋根の構造によって、雨漏りしないように作られていることが良く分かりました。

美山かやぶき民俗資料館で、中野貞一館長さんにお話をうかがいました。屋根の特徴やかやぶき民家での暮らしのことなど、熱心に耳を傾けてメモを取ったり、質問したりしました。昔の生活を思わせる道具もたくさん展示されており、電気を使わずに生活していたころの様子に想像をめぐらせました。生活様式が変わっても、なお大切に守り続けてこられた美山のかやぶき民家、その奥深さに少し触れたような気がします。



学校運営協議会より

今年度の地域学校協働活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な制約や対策のもとに実施しています。今後の予定として特に地域との関わりが深い、ホームステイ(小5)、職場体験(中2)、芦生の森フィールドワーク(小4、中1)では、開催時期の変更はもとより、内容自体の見直しも重ねてきました。しかしながら、状況次第では開催も難しくなることが懸念されます。地域の皆様には、子どもたちの学びに引き続きご理解とご協力をたまわりますようお願い申し上げます。

ホームページでは日々子どもたちの様子を随時更新中です！美山学の取組についても紹介しています。ぜひご覧ください。

